東蒲中学校
学校だより
健・根・信
令和５年９月８日
No.５
大田区立東蒲中学校
校　長　小松　重樹

全力で取組む二学期

今年は例年になく厳しい暑さが続く中、猛暑日の連続記録を更新し、過ごしにくい夏休みになりました。その反面、台風で線状降水帯が相次いで発生して、大雨を降らし、被害が拡大しました。沖縄では台風６号がＵターンするような進路を取ったため、長い期間、大荒れの天気になり、また、台風７号では日本列島を縦断し、多くの場所で被害が拡大しました。各地で被災された方々に、お見舞いを申し上げます。私たちは、このような災害時にどのように対応しなければならないのか、日頃から備えていかなければならないと、強く感じました。

さて、７月末には、男子バレー部、男子バスケットボール部が東京都大会に出場し、ともに１回戦を突破する成果をあげました。吹奏楽部は８月に吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を獲得しました。あと少しで金賞を獲得できるところまでいき立派に演奏することができました。バレー部とバスケット部に PTA から横断幕を作成していただき、正門に掲げ、生徒も大変喜びました。このような輝かしい結果になり、応援をしていただいた方に心より感謝申し上げます。

また、８月６日は大蒲田祭が４年ぶりに開催され、東蒲中生がボランティアとしてお神輿をかつぎ、祭りが盛大に盛り上がりました。様々な場面で東蒲中生の活躍があり、地域の方々が大変喜んでくれたことを嬉しく思いました。今後も地域に愛される学校を目指していきたいと考えています。

いよいよ、１年間で一番長い学期である２学期が無事にスタートしました。大田区陸上競技選手権大会をはじめ、１年生は菅平移動教室、２年生は職場体験、そして、かしわ祭合唱コンクール等の行事があります。東蒲中生の全力で取組む姿を、保護者や地域の方々に披露していきたいと思います。保護者、地域の皆様におかれましては、本校生徒の温かいご支援ご協力を引き続きお願い申し上げます。

自己評価報告書について

学校ホームページに、令和５年度大田区立学校自己評価報告書を掲載しました。ご確認ください。また、２学期末に保護者の皆さまにアンケートをお願いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

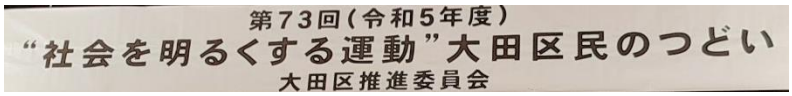
大蒲田祭

◎今後の主な予定

月	日	曜	行　　事	月	日	曜	行　　事
9	11	月	生徒会朝礼　安全指導	10	2	月	全校朝礼
	14	木	区陸上競技選手権大会		3	火	中間考査（～４日）
	16	土	授業公開　道徳授業地区公開講座		6	金	英語検定（３年公費）
	20	水	２年職場体験学習（～22 日）		10	火	安全指導・専門委員会
	21	木	１年菅平移動教室（～22 日）		12	木	中央委員会
	27	水	生徒会役員選挙		13	金	進路説明会　漢字検定

“社会を明るくする運動”大田区民のつどい

７月２２日（土）、大田区民ホールアプリコで開催された区民のつどいで、本校から３年の生徒会長が大勢の前で、堂々と意見発表をしました。素晴らしい内容だったと、声をかけていただきました。以下に内容を紹介します。



「犯罪を未然に防ぐための地域の取組」　　東蒲中学校３年

窃盗、傷害、殺人。毎日、多くのニュース番組で、これらの犯罪や事件が報道されます。そんな報道を耳にするたびに、今も苦しい思いをしている被害者やその関係者がいるという事実に目を向けると、胸が張り裂けそうな気持ちになります。では、なぜ犯罪や非行が起こってしまうのでしょうか。そして、これ以上、悲しい思いをする人を増やさないために、地域でできることは何でしょうか。

犯罪や非行は、犯人の性格や犯行時の環境だけでなく、幼少期の教育環境やストレス発散をするためなど、様々な要因が絡み合って起こっているそうです。最近動画サイトで見た、とある犯罪者のドキュメンタリーでも、殺人犯が「人を殺すまでは誰も目を向けてくれなかったから、少しでも誰かに目を向けられたくて殺した。」と言っていた場面がありました。その犯人は幼少期からずっと孤独を感じていたそうです。小学生のころからいじめを受けていたのに、友達だと思っていた人にも先生にも家族にも、誰からも助けてもらえず、家に帰っても両親の喧嘩が日常茶飯事で居場所がなかったそうです。だからといって犯人に同情したり、犯した罪は許されません。ですが、他にも孤独や寂しさから犯罪や非行を起こしたり、起こそうとしている人もいると私は思います。これ以上、そんな人たちを増やさないためにも、子どもたちへの教育環境を整備することが、今後の課題であると考えます。

私達の学校にも、悩みや不安を抱えた仲間がいます。私は生徒会長として、東蒲中生みんなが、安心で楽しく学校生活を送って欲しいと思い、様々な生徒会活動に取り組んでいますが、私達だけで全ての問題を解決できるわけでもありません。

ですが、私は、まずは近くにいる友達やクラスメイトと、たくさん話す機会を設け、いろんな話を聞くように心がけて生活しています。小さなことではありますが、話を聞いてくれる人がいる、相談に乗ってくれる人がいるということは、とても安心できることです。私が誰かの話し相手、相談相手になることで、誰かの不安を少しでも和らげることができるのなら、これからも色々な人とたくさん話をすること、困っている人に積極的に手を差し伸べることをしていきたいです。

また、私が困ったり悩んだりしたときには、話を聞いてくれる家族や友達がいます。私自身もそういった人たちの存在で助けられた経験が何度もあるので、助け合う、支え合うという気持ちは常に持ち続けて行く必要があるでしょう。

しかし一方で、身近なところに相談できる人がいないというケースもあります。そういう場合には、第三者による相談窓口を活用することも有効です。みなさんもご存知だと思いますが、大田区では子どもの相談窓口以外にも、数多くの信頼できる相談窓口が設けられています。だから、その相談窓口の存在をもっと色々な機会で広めるべきだと思います。近くに心の居場所がなくても、絶対どこかに心の拠り所はあるんだということを多くの困っている子どもたちに伝えたいです。そうすることで、子どもたちの孤独を解消し、これからの犯罪や非行をなくせるようになると思います。心の居場所は誰しも必要なものだと思います。

友だちといるとき、先生といるとき、図書室で過ごすとき、保健室で過ごすとき、家族といるとき、布団に寝転がっているとき、テレビを見るとき、相手や場所はそれぞれ違いますが、どこかに必ず居場所はあります。みなさんの心の居場所は何処ですか。もし、元気がなくなってしまったり、不安な気持ちになったときは、心の居場所に立ち寄ってみてください。そして、それをずっと大切にしてください。

犯罪や非行をなくし、さらに安全で、明るく楽しい社会にしていくために、まずは、誰でも安心できる心の居場所をもちましょう。私は自分の心の居場所を大切にしながら、誰かの心の居場所になれるよう、助け合い、支え合いの精神を大切にして生活していきたいです。

最後に、みなさんが社会を明るくするためにできることは、一体、何だと思いますか。一人ひとりの小さな取り組みが、明るい明日を作ります。誰も悲しまない、どんな人も安心して暮らすことのできる社会を、作っていきたいです。